(*e*) He sat *himself* down (再歸目的言)。

彼は自ら坐したり。

注意 1.——能動調に於て兩個の目的言を取る動詞は所動調に於ては一個の目的言を保持するを得、此れは保持目的言と稱せらる。(*c*) の "*Eucrid*" の如し。

注意 2.——自動詞の後に置かれ而して多少其動詞中に(目的言の)意義を含蓄したる目的言は同種目的言と稱せらる (*d*) の "*course*" の如し。

注意 3.——自動詞の後に置かれ動詞の主言と同一の人稱代名詞より成る目的言は再歸目的言と稱せらる。(*e*) の "*himself*" の如し。

(2) 動詞の目的補助言 (**81** 節參照)。

The citizens made him their *king*.

市民等は彼を彼等の王となせり。

(3) 目的格の名詞若くは代名詞と同格。

The people of England beheaded Charles I., their *King*.

英國の人民は彼等の王なる「チャールス」一世を斬首せり。

(4) 前置詞の目的言 (**29** 節)。

He fought against *me*.

彼は予に對して戰ひたり。

A house built on *sand*.

砂上に建てられたる家。

(5) 副詞的目的言。

He lived ten *years*. (時)。

彼は十年生活したり。

He walked ten *miles*. (空間)。

彼は十哩歩めり。

This cost ten *rupees* (價)。

此れは十「ルーピー」を値ず。

That box weighs ten *seers* (重量)。

其箱は十「セール」の重さあり。

The air is a trifle hotter to-day (度)。

空氣は今日少しく暑つし。

Bind him *hand* and *foot* (附隨の事情)。

彼を手と足を縛れ。

(6) Like (……の如く)、unlike (……に似ず)、near (近く)、next (次に)、等の形容詞の後に來る目的言。

No man could bend the bow *like him*.

何人も彼の如く弓を絞り得ざりき。

He stood *next me* in the class.

彼は級中に於て予の次なりき。

The house *nearest the grove* is the one that I prefere.

樹林に最も近き家は予が撰擇するものなり。

(7) 間投詞の後の目的言即ち感嘆句の目的言。

Unhappy *me*! (予は不幸なる哉)。

Oh unhappy *man*! (嗚呼不幸の人なる哉)。

Foolish *fellow*! to have wasted his time as he has done!

斯くして其時を浪費したりとは愚かなる奴哉。

165. **The two uses of Adjectives** (形容詞の二用法)。分類表の第四を見よ。

(*a*) 屬詞的用法。

An *industrious* student will generally succeed.

勤勉なる學生は一般に成功すべし。

(*b*) 叙言的用法。

He was *industrious*, and therefore he succeeded.

彼は勤勉なりき其れ故に彼は成功せり。

166. **Noun or Gerund used as an Adjective** (**44** 節) (形容詞として用ゐられたる名詞若くは動名詞)、—名詞若くは動名詞は形容詞として屬詞的に用ゐられ得ると雖ども叙言的には用ゐられず。

A *village* watch man. (村番人)。

Drinking water. (飲用水)。

A *sea* captain. (船長)。

Marble halls. (大理石館)。

A *bathing*-place. (浴場)。

167. **Adjective substituted for Adverb** (副詞に代用せられたる形容詞)、—動詞を形容する所の副詞は動詞の主言を形容する所の形容詞に變せらるゝことを得(其形容詞は然る時は副詞的附加言なり **187** 節參照)。

And *furious* every charger neighed.—Campbell.

而して凡ての戰馬は猛烈に嘶きたり。

Dark lowers the tempest overhead.—Longfellow.

暴風雨は黑く頭上に下る。

And *fearless* there the lowly sleep.—Mrs. Hemans.

而して其處に賤しきものが大膽に眠る。

They neither toil nor spin, but *careless* grow.—Thompson.

彼等は働くこともせず又紡ぐこともせず唯不注意に成長す。

Slow rises worth, by poverty depressed.—Johnson.

價値ある者が貧困に壓せられて徐々に起つ。

And *slow* and *sure* comes up the golden year.—Tennyson.

黄金時代は徐々に且つ確かに進み來る。

注意 1. 副詞が動詞の外の何れの品詞にても形容する時は副詞に形容詞を代用するを得ず、故に

He is *immensely* clever.

彼は非常に怜悧なり。

と云ふ代りに

He is *immense* clever.

彼は非常なる怜悧なりと云ふを得ず。

注意 2. 詩に於ては時として形容詞と副詞が "*and*" にて結合さるゝことあり其時には形容詞は動詞の主言を形容し而して副詞は其動詞を形容す。

When *faint* and *wearily* he drags
Along his noontide way.—Southey.

其時弱りたる彼は正午の潮に沿ひて疲れて遲々として行く。

Trip it *deft* and *merrily*.—Scott.

巧みに且つ愉快に其れを捕へよ。

But Sir Richard bore in hand
All the sick men from the land
Very *carefully* and *slow*.—Tennyson.

されど「サー、リチャード」は其地より來れる凡ての病人をば甚だ注意して徐かなる手に持てり。

168. Pronoun and Antecedent (代名詞と先行言) 分類表の第二及第三を見よ。

(*a*) 代名詞は其先行言即ち其の代表する名詞と同一の數及び性ならざる可らず然れども格は其文に依て定まる。

After Cæsar was declared *emperor* (主格), they slew *him* (目的言)。

「シーザー」が皇帝と宣言せられたる後彼等は彼を殺せり。

You must return the *book* (目的言), *which* (主格) was lent you.

汝は汝に貸されたる本を返却せざる可らず。

(*b*) 關係代名詞が若し二個の先行言を有し而して此等の先行言が同一の人稱ならざるならば關係代名詞は其れに最も近き先行言と人稱に於て一致す。

You are the man who *is* chosen.

汝は撰擇せられたる人なり。

次の諸文章に於ける誤謬を訂正せよ。

誤 I am the man who seek to help thee in distress.

正 I am the man who *seeks* to help thee in distress.

予は不幸に居る汝を補助せんとして居る人なり。

誤 Thou art the man who fleest away in the time of danger.

正 Thou art the man who *flees* away in the time of danger.

汝は危難の時に逃げ去る人なり。

誤 Art thou the chief, who brokest the power of the enemy?

正 Art thou the chief, who broke the power of the enemy.

汝は敵の權力を打破せる首長なるか。

169. **The two uses of Adverbs** (副詞の二用法)。

分類表の第五を見よ。

(a) 屬詞的用法 (**147** 節)、—副詞は屬詞的に用ゐらるゝ時は通例の仕方にて或る他の語若くは或成文を形容す。

(1) 形容詞を形容する例

He is *remarkably clever.*

彼は著しく怜悧なり。

(2) *Act decisively,* if you act at all.

苟も行動せば斷乎と行動せよ。

(3) 他の副詞を形容する例。

He explained his views *very clearly.*

彼は甚た明亮に其意見を説明せり。

(4) 前置詞を形容する例。

The sun stood *exactly over* our head.

太陽は丁度吾等の頭上にありたり。

(5) 接續詞を形容する例。

You may go, *only if* you promise to return.

汝は唯歸ることを約束せば行くもよし。

(6) 成文を形容する例。

Fortunately, all the thieves were caught.

幸にも盜賊は總て捕縛せられたり。

(b) 叙言的用法 (148節)。—此處にては副詞は先行動詞の補助言 (主言的若くは目的言的) なり。

(1) 主言的、—The results will soon be *out*(=published).

結果は速かに公けにせらるべし。

(2) 目的言的、—We found him *out*(=not at home) at that time.

吾等は其時彼が不在なるを發見せり。

170. **Verb and subject** (動詞及び主言)、—數及び人稱に關しては分類表の第六を見よ。

定動詞は其主言と同一の數及び人稱ならざるべからず (**81** 節)。

次の諸例に於て各動詞を其主言と適當に一致せしめよ。

When you was here last, you was very fond of reading.

答 was を兩方とも were とすべし

汝が曾に此處にありし時は甚だ讀書を好みたりき。

The pleasures of life vanishes, when we becomes old and infirm.

答 vanishes を vanish とし becomes を become とすべし

吾等が老年にして虚弱となれば生活の快樂は消失す。

Thou would have seen the horse, if it had come towards us.

答 would を wouldst にすべし

馬が吾等の方に來たりしならば汝は馬を見たりしならん。

School is broken up and the boys is playing at cricket.

答 is playing を are playing とすべし

學校は退けて男兒等は打毬の遊戯をして居る。

The Taj Mahal at Agra have stood a great many years.

答 have stood を has stood とすべし

「アグラ」なる「タジ、マハル」は多年立ち來りたり。

You is not the man that I want.

答 is を are にすべし

汝は余が要する所の人にあらず。

I am still as fond of books as when yon was here before.

答 was を were にすべし

予は汝が以前此處にありし時の如く尙ほ書を愛す。

The movement of most quadrupeds are very swift.

答 are を is にすべし

四足獸の動作は甚だ輕快なり。

You wilt be rewarded with a prize for your industry.

答 wilt を will にすべし

汝は汝の勤勉に對して賞與を以て酬はるべし。

The origin of Hindu manners and customs are unknown.

答 are を is にすべし

印度人の風俗習慣の起源は知られず。

There's no men in the room at this time.

答 There's を There are とすべし

此時室に一人も居らず。

To know the animals, minerals, and fruits of a country are necessary to a knewledge of its history.

答 are necessary を is necessary とすべし

一國の動物鑛物果實等を知るは其歴史を知るに必要なり。

Walking two or three hours daily in the open air give health and strength to the body.

答 give を gives とすべし

日々二三時間郊外を散歩する事は身體に健康と氣力を與ふ。

That seven hundred men was killed in that battle were sad news to all of us.

答 was killed を were killed とし

were sad を was sad とすべし

其戰場にて七百人殺されたりと云ふことは吾等の總てに悲しむべき報知なりき。

171. **The Third Person of Verbs** (動詞の三人稱)、——動詞は其主言が第一人稱若くは第二人稱の人稱代名詞である時の外は常に三人稱なり。

(1) 名詞の主言たる場合

A snake is crawling through the grass.

蛇は草の間を縫ふて匍匐して居る。

(2) 代名詞の主言たる場合

He returns to us to-morrow.

彼は明日吾々の所に歸へる。

(3) 不定法の主言たる場合

To err is human.

過ちは人生の常なり。

(4) 動名詞の主言たる場合

Sleeping gives rest to the body.

睡眠は身体に休息を與ふ。

(5) 語句の主言たる場合

How so do this was unknown to every one.

如何に此れをなすべきか何人にも知られざりき。

(6) 章句の主言たる場合

That we must all die is certain.

吾等が皆死せざる可らざる事は確かなり。

172. **Subjects not of the same Person** (同一の人稱ならざる主言)、——

(a) 二個若くは二個以上の主言が "*and*" にて接續せらるゝ時は動詞は第二人稱なるよりは寧ろ第一人稱なり又第三人稱なるよりは寧ろ第二人稱なり、而して一人稱は後に記るされざる可らず。

James and I *are* (=we are) great friends.

「ジエームス」と予は大友人なり。

(b) 然れども二個若くは二個以上の斯の如き主言が "*or*" 若くは "*nor*" に依て接續せらゝ時は動詞は其れに最も近き主言と人稱を一致す。

Either James or I *am* at top of the class.

「ジエームス」か若くは予が級中の首席なり。

Either you or James *has* done it.

汝か若くは「ジエームス」がそれを爲したり。

Neither James nor you *were* present

「ジエームス」も亦汝も出席せざりき。

然れども各主言に對して動詞を繰返して用ふるは更によかるべし、然らば文章次の如く書かるべし。

Either James *is* at the top of the class or I *am*.

「ジエームス」が級中の首席なるか若くは余なり。

Either you *have* done it, or James *has*.

汝が其れをなしたるか若くは「ジエームス」がなした。

Neither James was present, nor were you.

「ジエームス」は出席せざりき又汝も出席せざりき。

173. Two Singular Nouns with plural Verb (複數動詞と二個の單數名詞)、——二個若くは二個以上の單數名詞が "*and*" に依て接續せらるゝ時は複數動詞を要す。

A man and his wife have come here asking fo work.

一人の男子と其妻が仕事を賴みて此處に來りたり。

Your horse and mine (=my horse) *are* both at the door.

汝の馬と吾が馬は双方戸口にあり。

此規則に二つの例外あり

(*a*) 若しも "*and*" にて接續せられたる二つの名詞が同一事物若くは同一人に關するならば動詞は單數なり複數にあらず。

The great scholar and poet *is* dead.

大學者なる詩人は死せり。

此處にて "scholar" 及び "poet" は同一人に關す而して上の文は次の如く書くを得べし、——

The man who was a great scholar and a great poet, is dead.

大學者にして且つ大詩人なりし人は死せり。

注意、——"the great scholar and poet" なる文中に於ける如く冠詞が唯一度記載せらるゝ時には其冠詞は兩名詞に代用す、此れは一人の人(二人にあらず)の積りなることを示し且つ其れ故に動詞は單數ならざる可らざることを示す。

然れども "*the* scholar and *the* poet" なる文中に於ける如く冠詞が兩度記載せらるゝならば然る時は二人の別人の積りなれば次に來る所の動詞は複數ならざる可らず、例令ば

The scholar and the poet *are* dead.

學者及び詩人は死せり。の如し

(*b*) "*and*" に依て接續せられたる兩個の名詞が單一なる物若くは思考として考ひらるゝ時は動詞は單數なり。

例令ば次の如し

Truth and honesty *is* the best policy.

直實と正直は最良の政略なりき。

Curry and rice *was* his favourite food.

「カレー」と米と彼の好める食物なり。

此處にて "truth and honesty" は the practice of truth and honesty (眞實と正直の實行) と云ふに等し故に次に來る所の動詞は單數なり、同樣に "Curry and rice" は the food consisting of curry and rice (カレーと米より成る食物) 若くは the mixture of curry and rice (カレーと米の混合物) と云ふに同じ。

174. **One Singular Noun with Plural Verb** (複動數詞と一個の單數名詞)、——群集の名詞 (集合名詞より別にして) は複數動詞に依て綴かる即ち

The jury (*i.e.* the individual jurors, or men of the jury) *were* devided in *their* opinions, and could not agree as to the verdict

陪審官等 (即ち一人々の陪審官即ち陪審の人々) は各自の意見を異にし判決に就て一致すること能はざりき。

The jury (as one body) selected *its* speaker.

陪審官 (一体として) は其陪審長を撰びたり。

The multitude (individual men and women) *rise* from *their* seats.

群集は(個々の男子等及び婦女等)彼等の席より起つ。

This multitude (as one body) is too lorge into one room.

此群集は(一團として)一室に入れるには余り大なり。

注意、——一群の個々のものゝ積りなる其名詞は群集の名詞と稱せらる、一群が單獨の一躰と考ひらるゝ時は名詞は集合名詞なり。

175. **The Simple or Noun-Infinitive** (單純若くは名詞不定法)、——分類表の第七を見よ。

單純若くは名詞不定法は (*a*) 動詞の主言 (*b*) 動詞の目的言 (*c*) 動詞の補助言 (*d*)前置詞の (此れは甚だ希れなるも) 目的言 (*e*) 感嘆の一の形たることを得 (**111** 節及 **113** 節 *b* 參照)

(*a*) 動詞の主言

To sleep is necessary to health.

睡ることは健康に必要なり。

(*b*) 動詞の目的言

We desire *to improve*.

吾等は進歩せんことを願ふ。

(*c*) 動詞の補助言

He appears *to be clever.*

彼は怜悧らしい。

(*d*) 前置詞の目的言

your cow is about (=near) *to die* (=death).

汝の牝牛は殆んど死せんとす(死に近くある)。

(*l*) 感嘆の形

To think that he should have deceived me!

彼が予を欺きたらんかと思へば！

177. **The Gerundial or Qualifying Infinitive** (動名詞若くは形容不定法)、—分類表の第七を見よ。

動名詞若くは形容不定法は次の如くに用ゐられ得べし。

(*a*) 動詞を形容し其場合には副詞の働きをなし

(*b*) 名詞を形容し其場合には形容詞の働きをなし

(*c*) 形容詞を形容し其場合には副詞の働きをなし

(*d*) 括弧を導く爲めにして其場合には獨立なり(**112** 節及び **113** *a* を參照)

(*a*) 動詞を形容する例

They went out *to see* the sport.

彼等は遊戯を見んとて出で行けり。

(*b*) 名詞を形容する例

A house *to let* (屬詞的用法)

貸し家

This house is *to let* (叙言的用法)

此家は貸す

(*e*) 形容詞を形容する例

Be quick *to hear* and slow *to speak.*

聞くに敏にして語るに鈍なれ

(*d*) 括弧を入るゝに用ふる例

He is,—*to speak* plainly,—a thief.

彼は(明白に言ひば)盜なり。

177. **The two uses fo Participles** (分詞の二用法)、—分類表の第八を見よ。

(*a*) 屬詞的用法

A *willing* horse.

氣儘なる馬。

A *fallen* tree.

倒れたる木。

A *withered* flower.

萎れたる花。

(*b*) 叙言的用法、—此れは (1) 分詞が或動詞の補助言なる時(**80** 節參照)若くは (2) 分詞が先行の或名詞と獨立に用ゐらるゝ時に起るべし(**123** 節參照)

(1) We found him *sleeping* (目的言的補助言)、
吾等は彼の眠り居れるを發見せり。
He became *alarmed* (主言的補助言)、
彼は警告せられたり。

Our pace was slow, the horse *being tired* (獨立用法)、
馬が疲勞せる所で吾々の歩みは遲々たりき。

注意 1. 分詞が獨立句法に於て叙言的なることは獨立なる語句は一成文に擴充するを得る事實よりして明かなり而して其成文に於ては定動詞若くは叙言は分詞に代用せらるゝなり。

The horse being tired = *because* the horse *was tired*, our pace was slow.

「馬が疲勞せる所で」は「馬が疲勞したりし故に吾等の歩みは遲かりき」に等し

注意 2. ——一つの名詞若くは代名詞も言ひ顯はされざる時は無人稱獨立と稱せらる。

Supposing this to be true, you are certainly guilty.
此れを眞實なりと假定すれば汝は確かに犯罪人なり。

Granting that he is guilty, he must be punished.
彼が罪人たるを許すとせば彼は處罰せられざる可らず。

注意 3. 前置詞の一種類は(分詞と稱せられ得べき所の)此の無人稱獨立の用法より起れり、*considering* (考ふれば)、*concerning* (關して)、*touching* (關して)、*owing to* (に因て) 等の如きものなり。

Considering his age, he has done well.
彼の年令を考ふれば 彼は能く成したり。

Owing to his good name, he was always trusted.
彼の好評判に因て彼は常に信用せられたり。

We will hear you again *concerning*, *regarding*, or *touching* this matter.
吾等は此事柄に關して再び汝に聞かん。

PARSED SENTENCE.
(解剖文)

Brahmadatta, king of Benares, took a journey through the length and breadth of his kingdom to see if his subjects were happy and prosperous.

「ベネーアス」の王なる「ブラマダッタ」は其臣民の幸福にして繁榮なるやを視察せん爲め其全領土を貫きて旅行せり。

Brahmadatta——固有名詞、男性、單數、主格、動詞 "took" の主言。

King——普通名詞、男性、單數、"Brahmadatta" と同格にて主格。

Of——"Benares" を其目的言として持つ所の前置詞。

Benares——固有名詞、無性、單數、"of" なる前置詞の後の目的格。

Took——他動詞、第三人稱、單數、過去不定形、直說法、能動調、其主言 "Brahmadatta" と一致し "Journey" を目的言として持つ。

Journey——普通名詞、無性、單數、動詞 "took" の後の目的格。

Through——"length" 及び "breadth" を其目的言として有する前置詞。

Length——抽象名詞、無性、單數、前置詞 "through" の目的格。

And——"length" 及び "breadth" の兩名詞を接續する接續詞。

Breadth——抽象名詞、無性、單數、前置詞 "through" の目的格。

Of——"Kingdom" を其目的言に持つ所の前置詞。

His——人稱代名詞、男性、單數、領格、第三人稱、性、數及び人稱に於て其先行言 "Brahmadatta" と一致す。

Kingdom——普通名詞、單數、無性、"of" なる前置詞の後の目的格。

To see——他動詞、不定法、現在不定形、動名詞的用法、動詞 "took" を形容す、"if……prosperous" なる成文を目的言として有する所の他動詞。

If——接續詞。

His——(上の his の如く解剖すべし)。

Subjects——普通名詞、通性、複數、主格、動詞 "were" の主言。

Were——自動詞、第三人稱、複數、過去不定形、直說法、其主言と一致す。

Happy——性質の形容詞、常級、叙言的用法、動詞 "were" の主言的補助言。

And——"happy" 及び "prosperous" なる兩形容詞を接續する所の接續詞。

Prosperous——(happy と同法にて解剖すべし)。

第十章

ANALYSIS OF SIMPLE SENTENCES.

單文の解剖

178. 唯一の定動詞を有する所の文は單文と稱せらる、次の如し。

主言	定動詞
Rain	falls.
雨が	降る

Simple (單簡) なる語は *Single* (一個) を意味す。文中に唯一個の定動詞を有する故に此文は *single* (單文) (若くは simple) と稱せらる。

179. 一個以上の定動詞を有する所の文は Compound (合成文) か若くは complex (複文) なり。故に

If I see him to-day, I will invite him to my house.

予若し本日彼を見ば吾家に彼を招かん。

は二個の定動詞即ち "see" 及び "will invite" を有する故に單文にあらず。

又

The rain fell before they reached home, and every one got wet.

彼等が家に達せし前に雨が降り而して凡ての者が濡れたり。

は三個の定動詞即ち "fell" "reached" 及び "got" を有する故單文にあらず。

180. 單文が組成せらるゝ所の四つの異りたる部分即ち元素あり而して單文の解剖と其文を此等の數部に分解(即ち打破ること)することにあり即ち

1. The Subject (主言)。
2. Adjuncts to the Subject, *if any* (主言の附加言若しあらば)。
3. The Predicate (叙言)。
4. Adjuncts to the Predicate, *if any* (叙言の附加言、若しあらば)。

此等の四個の元素に就て第一及び第三(即ち主言及び叙言)は文章の根本なり詳言すれば此等のものなければ文章は成り立つを得ざるなり、併しながら第二及び第四(即ち主言及び叙言の附加言)は根本にあらず、彼等(即ち第二と第四)は有るも可無きも亦可なる所の單純なる附加物にして取除くも文を傷ふことなきなり。

181. I. 主言は名詞か若くは名詞の力を持つ所の或者ならざる可らず。

II. 主言の附加物即ち附加言は(若しもあらば)形容詞か若くは形容詞の力を持つ所の語ならざる可らず、彼等は此故に屬詞的附加言と呼ばれたり(時としては亦主言の延長と稱せらる)。

III. 叙言は定動詞なるか然らざれば定動詞の一を含有せざる可らず。

IV. 叙言の附加物即ち附加言(若しあらば)は副詞なるか若くは副詞の力を持つ所の語ならざる可らず、彼等は

此故に副詞的附加言と稱せられたり(時としては亦叙言の擴張と稱せらる)。

I. Subject. (主言)	II. Attributive Adjuncts (to Subject). (主言の屬詞的附加言)	III. Predicate (叙言)	IV. Adverbial Adjuncts (to Predicate) (叙言の副詞的附加言)
A tiger 虎は	fierce 猛き	was shot 射られたり	to-day 今日
The horse 馬は	tired 疲れたる	will sleep 眠らん	soundly. 心から

THE SUBJECT. (主　言)

182. 主言は數種の異れる形にて言ひ顯はされ得べし其の總ては(汝が已に學びたる如く)名詞か若くは名詞の力を有する所の語なり、即ち次の如し。

	主　言	叙　言
(a) 名詞… … … …	…Rain 雨が	is falling. 降りて居る
(a) 名詞が略されたり	…The virtuous(men) 徳ある人は	will prosper. 榮えん。
(b) 代名詞 … … …	…We 吾等は	must go. 行かざる可らず。

(c) 名詞不定法 … …	…To work 働くは	is healthy. 健康に効あり。
(d) 動名詞 … … …	…Working 働くことは	is healthy. 健康に効あり。
(e) 語句… … … …	…How to do this 如何にこれをなすべきかは	is doubtful. 疑はし。

注意——名詞不定法が主言として用ゐらるゝ時は時としては叙言の後に置かる而して "it" なる代名詞と同格なり。

It is sad to see this=it——viz. to see this—is sad.

此れを見ると云ふは悲し = 其れは(即ち此れを見ると云ふこと)悲し。

Attributive Adjuncts (to the Subject).

(主言の屬詞的附加言)

183. 總て斯の如き附加言は主言を形容する事は既に説明せられたり故に彼等(即ち附加言)は形容詞か若くは形容詞の力を持つ所の語ならざる可らず。

184. 屬詞的附加言の主要なる種類は

(a) 形容詞、例令ば

A *heavy* shower fell to-day.

今日激しき驟雨降りたりの如し。

此處に *heavy* は如何なる種類の驟雨が意味せられあるかを表示する故に主言 "shower" の意義に附け加へられたる或ものなり。

(*b*) 分詞若くは動詞狀形容詞 (**118** 節參照)。

A *fertilising* shower fell to-day.

豐饒ならしむる驟雨今日降りたり。

此例にては *fertilisng* は驟雨が如何なる種類の働きを爲すべく豫期せらるゝかを示す故に主言の意義に附け加へられたる或ものなり。

(*c*) 動名詞不定法 (**112** 節 b 參照)。

Water *to drink* is scarce in this place.

飲用水は此場所に乏し。

此例にては *to drink* は水が用ゐらるべき目的を示す而して形容詞の如く名詞 "water" を形容す。

(*d*) 領格の名詞若くは代名詞 (**166** 節 *a* 參照)。

My son's teacher called here to-day.

吾が子の教師は今日此處を訪へり。

(*e*) 形容詞として用ゐられたる名詞若くは動名詞 (**169** 節參照)。

The *village* watchman fell asleep in the night.

村番人は夜に眠りに落ちたり。

Drinking water is scarce is this place.

飲料水は此場所に乏し。

(*f*) 同格名詞 (**162** 節 *c* 參照)。

Alexander, *the king* of Macedon, conquered Persia.

「マセドン」の王「アレキサンダー」は波斯を征服せり。

此例にては *king* なる名詞は Alexander の如何なる種類の人なりしかを示して名詞 "Alexander" を形容す即ち其意義に或ものを附け加ふ。

(*g*) 前置詞と其目的言。

A man *of virtue* (=a virtuous man) will not tell a lie.

德行の人は虛言を語らざるべし。

(*h*) 副詞と或省畧せられたる分詞。

The *then* king=the then (reigning) king.

當時の王即其時統治したる王。

THE PREDICATE.

(敘　言)

185. 敘言は定動詞なるか若くは定動詞一個を含有せざる可らず、敘言の有し得べき總ての形は次の表に示されたり。

	Subject. (主言)	Predicate. (叙言) Finite Verb. (定動詞)	Object with qualifying words. (形容言を有する目的言)	Complement with qualifying words. (形容言を有する補助言)
1.	A hog 豕は	grunts 唸る	.....	.....
	The snake 蛇は	was killed 殺されたり	.....	.....
2.	My son 吾が子は	became なれり	.....	a good scholar. 善き學者に
	The thief 盜賊は	was ordered 命せられたり	.....	to be severely punished. 嚴重に處罰せらるべく
3.	The gardner 園丁は	killed 殺せり	that poisonous snake 其有毒なる蛇を	....
	The teacher 教師は	can teach 教へ得る	(a) my sons 吾が子等に (b) Euclid ユークリッドを	....
4.	They 彼等は	found 見出せり	the weary man 疲れたる人の	sound asleep. 熟睡せるを

(1) 文に於ては吾等は先づ完全なる叙言(79節參照)の自動詞を有し而して後所動詞の他動詞を有す、此等自動詞、他動詞の何れも目的言若くは補助言を有せず、故に動詞のみにて叙言を組成す。

(2) 文に於ては吾等は先つ不完全なる叙言(80節參照)の自動詞を有し而して後所動詞の變易動詞を有す(81節參照)。此等の各は動詞が云はずして遂せる所のものを完成する爲め補助言を要す。

(3) 文に於ては吾等は先づ單純なる目的言を(73節參照)有する他動詞を有し然る後複目的言を有する他動詞を有す、此等の各は叙言が完全になされ得べき前に言ひ顯はさるべき目的言(單純若くは複)を要す(即ち叙言を完全にせんとせば先づ此等の動詞の要する單純目的言か若くは複目的言を要するなり)。

(4) 文に於ては吾等は能動詞の變易動詞を有す故に叙言を完全にする爲めに目的言及び補助言の双方を要す(81節參照)。

注意 1.——若し目的言若くは補助言が其れに附隨せる形容語を有するならば此等の形容語は目的言若くは補助言と同樣に附記することを得べし。

故に "a good scholar" なる補助言に於て形容する所の "good" なる形容詞の爲めに別に棚を設くる必要は少しもなし。

又 "to be severely punished" なる補助言に於て形容する副詞 "severely" の爲めに別に欄を設くるの必要少しもなし。

又 "that poisonous snake" なる目的言を記するに形容する "that 及び "poisonous" なる形容詞の爲めに別に欄を設くるの必要少しもなし。

注意 2.—助動詞は主動詞と同欄に置かれ得べし、故に "can teach" を記するに吾等は "can" の爲めに一欄を與へ而して "teach" の爲めに更に一欄を與ふるを要せざるなり。

Adverbial Adjuncts (to the Predicate).

(敘言の副詞的附加言)

186. 動詞の働きを形容する所の一切のもの(時、仕方、場所、原因、手段、器械、目的若くは一切の他の事情に付き云ふことに依て動詞の働きを形容する)は敘言の附加言若くは添加言と稱せらる。

凡て斯かる添加言は(動詞を形容する故に)副詞か若くは副詞の力を有する所の語ならざる可らず。

187. 附加言の主要なる種類は次の如し。

(a) 副詞。

He sleeps *soundly.*

彼は心から眠る。

(b) 形容詞若くは副詞。

He went away *sad* and *depressed.*

彼は悲み且つ鬱悶して去り行けり。

(c) 動名詞不定法。

He came *to see* the horse.

彼は馬を見ん爲めに來れり。

(d) 前置詞と其目的言。

He fell *into the well.*

彼は井に陷れり。

(e) 名詞 { 時 — He walked *all day.* 彼は終日歩めり。
距離 — He walked *ten miles.* 彼は十哩歩めり。

(f) 獨立語句。

The sun having set, we went away.

太陽沒したる所で吾等は出で去れり。

EXAMPLES OF ANALYSIS.

(解剖の例)

(1) A darwesh, travelling through Tartary, having arrived at the town of Balkh, entered the king's palace by mistake, thinking it to be a public inn or serai.

一人の「ダーウエン」人が韃靼を通りて旅行し「バルク」町に到着したる所で普通の旅館即ち serai なりと思ひ過て王の宮殿に入り込めり。

(2) My father taught all his sons Euclid with much success.

吾が父は彼が子息皆に「ユークリッド」を教へ大に成功せり。

(3) Alexander, the king of Macedon, was surnamed the Great after his conquest of the Persian Empire.

「マセドン」の王「アレキサンダー」は波斯帝國を征服後大王と異名せられたり。

(4) The man employed for this purpose caught the thief stealing a watch.

此目的の爲めに傭はれたる人は懐中時計を盗む所の盗賊を捕へたり。

(5) The merchant, having much property to sell, caused all his goods to be conveyed on camels, there being no railway in that particular part of the country.

商人は賣却すべき多くの財産を有し其國の其格別なる部分には鐵道一つもなきを以て彼の總ての物貨を駱駝の背にて運搬せしめたり。

(6) A gentleman of wealth and position, living in London, some sixty years ago, had a country seat in Kent, some forty miles distant from the metropolis.

倫敦に住し財産あり地位ある一紳士が六十年許り以前首都より四十哩許り隔りたる「ケント」に一別莊を有したり。

I. Subject. (主語)	II. Attributive Adjuncts (to Subject) (主語の限定的附加語)	III. 叙語 Predicate.			Adverbial Adjuncts (to Predicate) IV. (叙語の副詞的附加語)
		Finite verb (定動詞)	Object with qualifying words. (形容語を有せる目的語)	Complement with qualifying words. (形容語を有せる補助語)	
2. A Darwesh	(a) travelling through Tartary (b) having arrived at the town of Balkh	entered	the king's palace	.....	(a) by mistake (b) thinking it to be a public inn or serai.
1. Father	my	taught	(a) all his sons (b) Euclid	.....	with much success.
3. Alexander	the King of Macedon	was surnamed	.....	the Great	after his conquest of the Persian Empire.
4. The man	employed for the purpose	caught	the thief	stealing a watch.	.....
5. The merchand	having much property to sell	caused	all his goods	to be conveyed on camels	there being no railway in that particular part of the country.
6. A gentleman	(a) of wealth and posttion (b) living in London (c) some sixty years ago	had	a country seat	.....	(a) in Kent (b) some forty miles distant from the metropolis.

次の諸單文を摸範に從て解剖せよ。

(1) A certain fowler, having fixed his net, withdrew to a little distance for the sake of allowing birds to come.

或捕鳥者其網を張りたる後鳥を來らせん爲めに少距離の所に退けり。

(2) The king of the pigeons was by chance passing through the sky at this time with a troop of followers.

鳩の王は此時從者の一隊を引連れて偶然にも空中を通行して居りたり。

(3) He and they caught sight of the rice-grains scattered by the fowler near the net.

彼及び從者等は網の近くに捕鳥者に播かれたる米粒を見たり (caught sight)

(4) The king of pigeons then asked his rice-loving followers this question——

然る時に鳩の王は彼の米を愛する從者に此問をかけたり。

(5) Why are rice-grains lying here in this lonely place?

何故に此寂しき場所の此處に米粒が横はり居るか。

(6) We will see into this thing.

吾等は此事を研究すべし。

(7) We must be cautious in our movements.

吾等は吾等の動作に注意せざる可らず。

(8) One conceited pigeon among the rest gave them bad advice.

其外のものゝ中にて一羽の自尊なる鳩が彼等に惡勸告を與へたり。

(9) He told them to fly down to the rice-grains for the sake of satisfying their hunger.

彼は彼等の飢餓を滿足せしむる爲め米粒に飛び下らんと彼等に告げたり。

(10) Having flown down and listened to this bad advice, they began to peck up and swallow the grains against the advice of their king.

飛び下りて此惡勸告に聽きて彼等は其王の勸告に反し米粒を啄み上げ之を飲み込み始めたり。

(11) On their beginning to peck they were all caught in the net.

彼の摘み始めるや彼等は皆網の中に捕はれたり。

(12) Then they blamed their rash and imprudent friend for having given them such bad advice.

然るときに彼等は斯の如き惡き勸告を彼等に與へたりとて彼等の輕卒不注意なる友を非難せり。

(13) They ought rather to have blamed themselves for having listened to him.

彼等は寧ろ彼に聽いなことに向て自らを非難すべき筈なり。

(14) The king now told them what to do.

王は今彼等に如何にすべきかを語りたり。

(15) At one moment and with one united movement springing suddenly up fly off with the net.

一瞬時に一の共同の運動を以て突然飛び上りて網を以て飛び去れり。

(16) Small things become strong by being united among themselves.

少さき事物も彼等自らの間に一致共同するに依て強くなる。

(17) Even mad elephants can be held fast by a rope made of thin blades of glass.

狂象と雖ども草の細き葉にて作れる繩にて固く縛ぎ止むるを得。

(18) The pigeons acted on this advice.

鳩等は此勸告に從て行動せり。

(19) Making a sudden spring togather, they flew up into the air carrying the net with them.

共に不意の飛び上りをなし彼等と共に網を運びて空中に飛び上れり。

(20) At first the fowler hoped to see them come down again to the earth.

最初に捕鳥者は再び地上に下り來る彼等を見んと望めり。

(21) But they passed out of sight with the net about them.

然れども彼等は彼等の周圍に網を以て見えざる所に過ぎ去れり。

(22) In this way the fowler lost both his net and the pigeons.

こんな風にて捕鳥者は網と鳩と両方を失へり。

(23) The pigeons then said to their king :—" O king, what is the next thing to be done."

然る時に鳩等は彼等の王に言へり「ヲー王よ扨て此次には如何にすべきか」と。

(24) The king directed them to a certain place.

王は彼等を或場所に向けたり。

(25) There his friend, the king of the mice, received them kindly.

其處に彼の友なる鼠の王は親切に彼等を迎えたり。

(26) The king of the mice set them all free by nibbling through the net.

鼠の王は網を喫貫きて彼等を皆自由にせり。

(27) Thus the whole troop of pigeons escaped by means of union.

此の如くして鳩の全隊は一致の手段に依て免れたり。

(28) All men should profit by this lesson.

總ての人は此教に依て利益する所あるべし。

(29) A chariot will not go on a single wheel.

戎車は單輪にては進まざるべし。

(30) A creeper, having nothing to support it, must fall to the earth.

匍匐植物は其れを支ふるものなければ地に倒れざる可らず。

APPENDIX A.

增補

THE CONJUGATION OF VERBS.

(動詞の變化)

1. 動詞を變化すとは其の主要なる各部を示すことなり。

2. 英語の動詞の主要なる部分は現在、過去、過去分詞なり、總ての他の部分は能動調及び所動調とも容易に此等の三部分より形造られ得るなり。

3. 變化に就て二大種類あり。

(1) 强變化即ち古變化(此變化は今は昔時より大に少數なり)其れは *rise, rose* の如く現在の中間の母音を變じて過去を形造るなり。

(2) 弱變化即ち新變化(今は强變化よりは大に多數なり)は *love, loved* の如く中間の母音に如何なる變化もなく現在に *ed* 若くは *d* 若くは *t* を附け加へて過去を形造るなり。

此等の外に一部は弱一部は强なる故に混合と稱せられ得べき第三種のものあり。

第一節

强變化即ち古き變化

4. 强變化の動詞は內部の變化に依て變化せらる、其性質は單一なる規則に導くには餘り錯雜なり。

最も一般なる方法は

(1) 過去にするには中間の母音を變じ

(2) 過去分詞にするには *en, n,* 若くは *ne* を附け加ふるにあり。

5. 以前は强變化の總ての動詞は *en, n, ne* を附け加へて過去分詞を形造りたり然れども其の多くは現今此接尾字を捨てたり。

故に强變化の動詞は現存する如く二大類別となる即ち

(1) 過去分詞に於て *en, n,* 若くは *ne* を保持するもの。

(2) 過去分詞に於て *en, n,* 若くは *ne* を失ひたるものなり。

第一類別

現在	過去	過去分詞
Arise (起る)	arose	arisen
Bear (生す)	bore	born
Bear (保つ)	bore	borne
Beget (產する)	begot, begat	begotten, begot
Bid (評價する、命する)	bade, bid	bidden, bid
Bite (嚙む)	bit	bitten, bit
Bind (縛る)	bound	*bounden, bound
Blow (打つ)	blew	blown
Break (破る)	broke	broken
Chide (譴る)	chid	chidden, chid

現在	過去	過去分詞
Choose (撰む)	chose	chosen
Cleave (裂く)	clove, cleft	*cloven, cleft
Crow (鳴く)	crew, crowed	crowed
Draw (曳く、畫く)	drew	drawn
Drink (飲む)	drank	*drunken, drunk
Drive (追ふ)	drove	driven
Eat (食する)	ate	eaten
Fall (落つる、倒る)	fell	fallen
Fly (飛ぶ)	flew	flown
Forbear (忍ぶ)	forbore	forborne
Forget (忘る)	forgot	forgotten
Forsake (見捨る)	forsook	forsaken
Freeze (凍る)	froze	frozen
Get (得る)	got	*gotten, got
Give (與ふ)	gave	given
Go, weind (行く)	went	gone
Grow (生長する)	grew	grown
Hide (隱くる)	hid	hidden, hid
Know (知る)	knew	known
Lie (横臥する)	lay	lain
Ride (騎する)	rode	ridden
Rise (起上る)	rose	risen
See (見る)	saw	seen
Shake (振る)	shook	shaken

現在	過去	過去分詞
Shrink (縮む)	shrank	*shrunken, shrunk
Sink (沈む)	sank	*sunken, sunk
Slay (殺す)	slew	slain
Slide (滑べる)	slid	slidden, slid
Smite (打つ)	smote	smitten, smit
Speak (話す)	spoke	spoken
Steal (盜む)	stole	stolen
Stride (濶歩す)	strode	stridden
Strike (打つ)	struck	*stricken, struck
Strive (勉むる)	strove	striven
Swear (誓ふ)	swore	sworn
Take (取る)	took	taken
Tear (裂く)	tore	torn
Thrive (榮ふる)	throve, thriven	thriven, thrived
Throw (投ぐる)	threw	thrown
Tread (歩む)	trod	trodden, trod
Weave (織る)	wove	woven
Write (書く)	wrote	written
Wear (着る)	wore	worn

注意——*印を記したる七個の分詞は現今主に動詞狀形容詞として用ゐられ動詞の時の一部として用ゐられず。

動詞狀形容詞	動詞の時の一部
Our *bounden* duty. 吾等の束縛せられたる義務。	He was *bound* by his promise. 彼は彼の約束に依て束縛せられたり。
A *drunken* man. 酒飲みたる人。	He had *drunk* much wine. 彼は多量の酒を飲みたりき。
A *sunken* ship. 沈みたる船。	The ship had *sunk* under the water. 船は水の下に沈みたりき。
A *stricken* deer. 打たれたる鹿。	The deer was *struck* with an arrow. 鹿は矢を於て打たれたり。
The *shrunken* stream. 水涸れたる小河。	The stream has *shrunk* in its bed. 小河は其河底に以て水涸れたり。
Ill-*gotten* wealth. 惡く得られたる富。	He has *got* his wealth by ill means. 彼は惡手段にて彼の富を得たり。
A *cloven* hoof. (裂けた蹄)。	The tree was *cleft* by lightning. 木は電雷に依て裂かれたり。

第二類別

現在	過去	過去分詞
Abide (住す、固守す)	abode	abode

現在	過去	過去分詞
Awake (覺める)	awoke	awoke
Become (成る)	became	become
Begin (始むる)	began	begun
Behold (注視する)	beheld	beheld, beholden[1]
Cling (固着す)	clung	clung
Come (來る)	came	come
Dig (掘る)	dug	dug
Fight (戰ふ)	fought	fought
Find (見出す)	found	found
Fling (投ぐる)	flung	flung
Grind (磨ぐ)	ground	ground
Hang (自動詞)[2] (懸かる)	hung	hung
Hold (保つ)	held	held
Ring (鳴る、鳴らす)	rang	rung
Run (走る)	run	run
Shine (照る)	shone	shone
Sing (歌ふ)	sang	sung
Sit (坐す)	sat	sat
Sling (投ぐる)	slung	slung

[1] Befolden は "義務を負ふたる" を意味す

[2] 他動詞は弱并びに強變化の形の兩方に變化せらるゝなり

現在	過去	過去分詞
Slink (這ひ逃ぐる)	slunk	slunk
Spin (績ぐ)	spun	spun
Spring (跳ぶ、生ず)	sprang, sprung	sprung
Stand (立つ)	stood	stood
Stave (穿つ)	stove, staved	stove, staved
Stick (附着す)	stuck	stuck
Sting (刺す)	stung	stung
Stink (惡臭を發す)	stank	stunk
String (紐をつく)	strung	strung
Swim (泳ぐ)	swam	swum
Swing (振る)	swung	swung
Win (勝つ、獲る)	won	won
Wind (卷く、迂廻する)	wound	wound
Wring (扭る)	wrung	wrung

第二節

(混合變化)

6. 混合變化の動詞は二大類別となる即ち

(1) (弱變化の動詞の如く)現在に *d* 若くは *t* を附け加へて過去及び過去分詞を形造るもの *seek*, *sought* の如く中間の母音を變ず(強變化の動詞の如く)るもの。

(2) (弱變化の動詞の如く)中間の母音を變ずることなく *d* 若くは *t* にて過去を形造る然れども(强變化の動詞の如く) *en* 若くは *n* を附け加へて過去分詞を形造るもの例令ば show, show*ed*, show*n* の如し。

第一類別

現在	過去	過去分詞
Beseech (求む、願ふ)	besought	besought
Bring (持來る)	brought	brought
Buy (買ふ)	bought	bought
Catch (捕へる)	caught	caught
Seek (探がす)	sought	sought
Sell (賣る)	sold	sold
Teach (教ふ)	taught	taught
Tell (語る)	told	told
Think (考ふ)	thought	thought
Work (働く)	wrought, worked	*wrought, worked
Owe (負ふ)	ought, owed	owed
Dare (敢てする)	durst, dared	dared
Auxiliary. (助動詞) Can (能ふ)	could	(無し)
Shall (あらう)	should	(〃)
Will (あらう)	would	(〃)
May (得る)	might	(〃)

第二類別

現在	過去	過去分詞
Beat (打つ)	beat	beaten
Do (爲す)	did (不規則)	done
Grave (彫る)	graved	*graven, graved
Hew (斫る)	hewed	hewn
Lade (積荷する)	laded	laden
Melt (溶ける)	melted	*molten, melted
Mow (草刈る)	mowed	mown
~~Rive~~ (裂く)	rived	riven
Seethe (煮る)	seethed	*sodden, seethed
Shave (毛剃る)	shaved	shaven
Shear (毛刈る)	sheared	*shorn, sheared
Sow (種蒔く)	sowed	sown
Swell (膨脹する)	swelled	swollen
show (示す)	showed	shown
Sew (縫ふ)	sewed	sewn
Rot (朽つる)	rotted	°rotten, rotted
Strew (散亂さす)	strewed	strewn, or strown
Prove (證する)	proved	°proven, proved
Saw (鋸る)	sawed	sawn
Shape (形造る)	shaped	°shapen or shaped
Writhe (撚る)	writhed	°writhen, writhed

注意——*印を記したる分詞は現今主に動詞狀形容詞として用ゐられ動詞の時の一部として用ゐられず。

Verbal Adjective. (動詞狀形容詞)	Parts of a Tense. (動詞の時の一部)
Wrought iron. 鍛ひたる鐵。	The horse is *worked* too hard. 馬は餘り甚しく働かされたり。
A *graven* image. 刻みたる肖像。	The image was *engraved* with letters. 肖像は文字を以て刻まれたり。
A *molten* image. 溶解金屬製の肖像。	The image was *melted* with heat. 肖像は熱を以て溶かされたり。
A *rotten* plank. 腐りたる板。	The plank was *rotted* with water. 板は水の爲に腐らされたり。
The *sodden* flesh. 煮られたる肉。	The fresh was *seethed* in hot water. 肉は湯の中に煮られたり。
A *shorn* lamb. 毛刈られたる小羊。	The lamb was *sheared* yester-day. 小羊は昨日毛刈られたり。

注意 2.——° 印を記したる分詞は現今詩に於ける外見る事希なり。

第 三 節

(弱變化即ち新らしき變化)

7. 前表に示されたる其等を除き凡ての動詞は弱變化即ち新變化に屬す而して新變化に於ての過去及び過去分詞を形造るの方法は現在に *ed* 若くは *t* を附け加へるにあり。

8. 接尾字"*ed*"を附け加ふる方法は一樣ならず且つ下の二規則は注意せざる可らず。

(1) 若し動詞が *e* にて終るならば其時には單に *d* のみ附け加へられ *ed* は附け加へられず例令ば次の如し。

Live, lived (*liveed* にあらず)。

Clothe, clothed (*clotheed* にあらず)。

此規則には一の例外もなし。

(2) (*a*) 若し語尾の子音が單一ならば

(*b*) 其れが强音にせらるゝならば

(*c*) 而して單一なる母音に先立たるゝならば

語尾の子音は *ed* の前に重ねらるゝなり、例令ば次の如し。

Fan, fanned (*fanea* にあらず); *drop, droppea droped* にあらず)。

Com-pel', com-pelled; *con-trol', con-trolled.*

然れども *length'-en* の如く强音符が終りの綴字にあらぬ動詞にては過去は *lengthened* なり、*boil* の如く母音が單一ならぬ動詞にては過去は *boiled* なり、而して *fold* の如き終りの子音が單一ならぬ動詞は過去は *folded* なり。

此規則には甚だ僅かの例外あり、一の例外は語尾の *l* に起る、此語尾の *l* は强音にせられざる時にても重ね

らる例令は trav′-el, trav-*elled* (trav′-*eled* にあらず) の如し、然れども此語尾の *l* が其れに先行する所の二個の母音を有する時は *l* は重ねられず例令は *trav′-ail*, *trav′-ailed* (*trav′-ailled* にあらず) の如し。

9. 弱變化の或動詞は "*t*" にて過去を形造る而して現在の母音が長きものなる時は其れを短縮す。

Creep (這ふ)	crept	crept
Sleep (眠る)	slept	slept
Sweep (掃く)	swept	swept
Keep (保つ)	kept	kept
Weep (泣く)	wept	wept
Burn (燒く)	burnt	burnt
Deal(dēl) (商ふ、行ふ)	dĕ*a*lt	dĕ*a*lt
Dream (drēm) (夢む)	drĕ*a*mt or dreamed	drĕ*a*mt or dreamed
Dwell (住む)	dwelt	dwelt
Feel (感ずる)	felt	felt
Kneel (跪く)	knelt	knelt
Smell (嗅ぐ)	smelt	smelt
Spell (綴字する)	spelt	spelt
Lean (lēn) (倚りかゝる)	lĕ*a*nt or leaned	lĕ*a*nt or leaned
Mean (mēn) 意味する、企つる)	mĕ*a*nt	mĕ*a*nt

Spill (こぼす)	spilt	spilt
Spoil (損ふ)	spoilt or spoiled,	spoilt or spoiled

(例外の動詞)——Make (造くる、なす), made, made. Have (持つ), had, had. Hear (聞く), heard. Leave (見棄てる), left, left. Cleave (裂く), cleft, cleft. Lose (失ふ), lost, lost. Die (死す), died, dead. Shoe (靴を穿つ), shod, shod. Flee (逃る), fled, fled. Say (言ふ), said, said. Lay (横へる), laid, laid. Pay (拂ふ), paid, paid.

10. 現在に於て *d* 若くは *t* にて終る動詞は過去に於て *ed* を捨てたり。

(*a*) 此類別に於ける或動詞は總て全く同樣なる三個の形を有す (現在、過去、分詞とも)

現在	過去	過去分詞
Burst (破裂す)	burst	burst
Cast (鑄る)	cast	cast
Cost (價す)	cost	cost
Cut (切る)	cut	cut
Hit (打つ)	hit	hit
Hurt (傷ふ)	hurt	hurt
Let (許す)	let	let
Put (置く)	put	put
Rid (脫する)	rid	rid

現在	過去	過去分詞
Set (置く)	set	set
Shed (流す)	shed	shed
Shred (裂く)	shred	shred
Shut (閉つる)	shut	shut
Slit (裂く)	slit	slit
Spit (唾する)	spit or spat	spit
Split (裂く)	split	split
Spread (擴充す)	spread	spread
Sweat (發汗す)	sweat	sweat
Thrust (衝く)	thrust	thrust
Bet (賭す)	bet or betted	bet or betted

(b) 此の類別に於ける他の動詞は現在は *d* にて終る然れども *d* を *t* に變じて過去分詞を形造るなり、此の如き動詞は英語に少くとも九個あり。

現在	過去	過去分詞
Bend (曲ぐる)	bent	bent
Build (建てる)	built	built
Gild (鍍金する)	gilt or gilded	gilt or gilded
Gird (繃ふ)	girt	girt
Lend (貸す)	lent	lent
Rend (裂く)	rent	rent

現在	過去	過去分詞
Send (送る)	sent	sent
Spend (費す)	spent	spent
Wend (向ふ)	went	(無シ)

(c) 此の類別の他の動詞は過去及び過去分詞に於て母音を短縮するものを除き三つの同一なる形を有す。

現在時	過去時	過去分詞
Bleed (出血す)	bled	bled
Breed (產む、發育す)	bred	bred
Feed (養ふ)	fed	fed
Speed (急ぐ)	sped	sped
Meet (出會ふ)	met	met
Lead (導く)	led	led
Read (讀む)	read(rĕad)	read(rĕad)
Light (點火す、照らす)	lit, lighted	lit, lighted
Shoot (射る)	shot	shot

APPENDIX B.

增 補

AUXILLIARY AND DEFECTIVE VERBS.

(助動詞及不完全動詞)

時を形造り若くは他の動詞の意味の變化を補助する所の其等の動詞は助動詞なりと稱せらるゝなり、

其の部分の或ものが不足なる即ち欠乏してある所の詳言すれば法と時の十分なる數を有せざる其等の動詞は不完全動詞なりと稱せらるゝなり。

次の表より見らるべき如く同一動詞が屢々助動詞幷びに不完全動詞なり。

(1) *BE* (あ る)、

		Singular (單 數)			Plural (複 數)		
		1	2	3	1	2	3
Present (現在)	*Indicative* (直說法)	am	art	is	are		
	Subjunctive (接續法)	be	be	be	be		
Past (過去)	*Indicative* (直說法)	was (ありし)	wast	was	were		
	Subjunctive (接續法)	were (ありし)	wert	were	were		

Infinitive (不定法)	Imperative (命 令 法)	Present Participle (現在 分詞)	Perfect Participle (完成 分詞)
To be	be	being	having been

此動詞は三種の異なる意義にて用ゐらる即ち

(*a*) 完全なる叙言の自動詞として用ゐらる、

God *is* = God exists.

神はあり　　神は存在す

There *are* many men, who etc, = Many men exists, who, etc.

其處に……する所の人

あり　　…所の多くの人存在す。

(*b*) 不完全なる叙言の自動詞として用ゐらる即ち

A horse *is* a four-leggd animal.

馬は四足動物なり。

This coat *was* of many colours.

此上衣は多くの色を有したり。

(*c*) 助動詞として用ゐらる即ち

所動調動詞の總ての時及び能動調の動詞の總ての連續形の時は動詞 *to be* の補助に依て形造らるゝなり。

(2) *HAVE* (持つ)

		Singular (單 數)			Plural (複 數)		
		1	2	3	1	2	3
Present (現在)	*Indicative* (直說法)	have	hast	has	have		
	Subjunctive (接續法)	have	have	have	have		
Past (過去)	*Indicative* (直說法)	had	hadst	had	had		
	Subjunctive (接續法)	had	hadst	had	had		

Infinitive (不定法)	Imperative (命令法)	Present Participle (現 在 分 詞)	Perfect Participle (完 成 分 詞)
To have	have	having	having had

此動詞は二種の異なる意義にて用ゐらる即ち

(a) 所有を表示する所の他動詞として用ゐらる、此意義に於ては總ての其法と時に於て規則正しく變化せらる即ち

We have (=we possess) four cows and twenty sheep.
吾等四疋の牝牛と二十疋の羊を持つ(吾等は所有す)

(b) 助動詞として即ち

能動調及び所動調の總ての法の凡ての完成形の時は此動詞の助けに依て形造らるゝなり。

(3) *SHALL* (あらう)

	Singular (單數)			Plural (複數)		
	1	2	3	1	2	3
Present (現在)	shall	shalt	shall	shall		
Past (過去)	should	shouldst	should	should		

此動詞には他の時若くは形は一もなし、現在は未來の第一人稱を形造る爲め助動詞として用ゐられ而して過去は接續法を形造る爲め用ゐらるゝなり。

(4) *WILL* (あらう)

	Singular (單數)			Plural (複數)		
	1	2	3	1	2	3
Present (現在)	will	wilt	will	will		
Past (過去)	would willed	wouldst willedst	would willed	would willed		

Infinitive (不完法)	Imperative (命令法)	Present Participle (現在分詞)	Perfect Participle (完成分詞)
To will	.....	willing	having willed

此動詞は二種の異なる意義にて用ゐらる即ち

(a) 助動詞として用ゐらる即ち

未來の直說法の第二人稱及第三人稱は *will* に依て形造られ而して接續法の一切の人稱は *would* に依て形造られ得るなり。

(b) 書きたる証書即ち遺言に依て財產を遺すことの意義にて主要動詞若くは獨立動詞として用ゐらる、此意義に於ては過去は *willed* なり *would* にあらず。

He *willed* = decided by his written will or testament, that all his property should go to his daughter.

彼は遺言せり=即ち彼の書かれたる遺言即ち遺書に依て彼の總ての財產は其娘に遺るべき事を決定せり。

(5) *DO.* (爲す)

	Singular (單數)			Plural (複數)		
	1	2	3	1	2	3
Present ... ... (現在)	do	dost	does	do		
Past ... ... (過去)	did	didst	did	do		

Infinitive. (不定法)	Imperative. (命令法)	Present Participle. (現在分詞)	Perfect Participle. (完成分詞)
To do	do	doing	having done

此動詞は三種の異る意義にて用ゐらる即ち

(a) 「成遂ぐる」なる意義にて主要動詞若くは獨立動詞として用ゐらる、此意義に於ては其の總ての法及び時に於て規則正しく變化せらる、則ち

It will be a year, before you can do this.

汝が此れを成し得る前に一年になるべし。

I am now *doing* what you *have done* already.

予は今汝が既に成したる所のものを爲しつゝあり。

(b) 助動詞として用ゐらるゝ時は現在及び過去に於て變化せらゝのみなり。

Do 及び *did* は語勢の爲め、否定語を挿入の爲め、問を掛くる爲めに他の動詞の現在過去の直說法の助動詞として用ゐらる(**93** 節 **94** 節參照)。

Do は又肯定の意義にて命令法に力を與ふる爲め俗語の英語に用ゐらる(**100** 節參照)。

Do は常に命令法が "*not*" に依て先立たるゝ時に用ゐらる例令ば "*Do not steal*" (盜む勿れ) の如し(**99** 節參照)。

(c) 前に記されたる動詞の反覆を避る爲め代動詞即ち代用動詞として用ゐらる即ち

I finished the work, and so did (=finished) you.

予は仕事を終りたり而して汝も左樣なせり(即ち終りたり)。

(6) *MAY* (能ふ)

	Singular. (單數)			Plural. (複數)		
	1	2	3	1	2	3
Present ... ... (現在)	may	mayest	may	may		
Past ... ... (過去)	might	mightest	might	might		

此動詞は常に助動詞なり、上に示したる其等の外他の形を一も有せず。

(7) *CAN* (能ふ)

	Singular. (單數)			Plural. (複數)		
	1	2	3	1	2	3
Present ... ... (現在)	can	canst	can	can		
Past ... ... (過去)	could	couldst	could	could		

此動詞は常に助動詞なり、上に示したる其等の外他の形を一も有せず。

(8) *OUGHT* (屬する)

	Singular. (單 數)			Plural. (複 數)		
	1	2	3	1	2	3
Present or *Past.* (現在又は過去)	ought	oughtest	ought	ought		

此動詞は上に示されたる其等の外他の形を一も有せず而して過去及現在に等しく適用す、即ち

Present (現在)、—You ought *to do* this; (and you are expected to do it).

汝は此れを爲すべく屬す(即ち爲さゞる可らず) 而して汝は其れを爲すべく豫期せらる)。

Past (過去)、—You ought *to have done* this; (but you did not do it).

汝は此れを爲したる筈なりしに(汝は其れを爲さゞりき)。

(9) *MUST* (…ねばならぬ)

此動詞は形の變化を一も有せずして過去及び現在に等く適用す。

Present (現在)、—You must *do* this before sunset.

汝は日沒前に此れをなさねばならぬ。

Past (過去)—You must *have done* it by this time.

汝は今迄に其れを爲して居らねばならなかつた。

(10) *DARE* (敢てする)

	Singular. (單 數)			Plural. (複 數)		
	1	2	3	1	2	3
Present... ... (現 在)	dare	darest	dare / dares	dare		
Past ... ... (過 去)	durst / dared	durst / dared	durst / dared	durst / dared		

Infinitive. (不定法)	*Imperative.* (命令法)	*Present Participle.* (現在分詞)	*Perfect Participle.* (完成分詞)
To dare	dare	daring	having dared

此動詞の特性は "not" に依て續かるゝ時は現在の單數は "dare" にして "dares" にあらざることなり。

He *dare* not (=has not the courage to) leave the room.

彼は敢て室を去らず=即ち去る勇氣を有せず。

過去は "durst" 及び "dared" の兩形を有す即ち

He *durst* not (or dared not) leave the room.

彼は敢て室を去らざりき。

此動詞は總ての法及び時を有す。

(11) *QUOTH* (言ふ)

此動詞は "says" (云ふ) 若くは "said" (云ひし) を意味し過去及び現在に共に適用す、其れは第三人稱に於てのみ而して單數に於てのみ用ゐらる、其れは常に其主言の前に立つ即ち

"Let me not live" *quoth* he.—*Shakespeare.*

予を生かしむる勿れと彼は言ふ。

(12) *NEED* (要する)

此れは "require" (要求す) "want" (要す) を意味する所の主要動詞なり而して其總ての法及び時に於て規則正しく變化せらる。

第三人稱單數は丁度否定文に於て *dare* が *dares* の代りに用ゐられたる如く "*not*" に續かるゝ時には *need* にして *needs* にあらず即ち

He *need* not (=is under no necessity to) do any more work.

彼は最早仕事をするを要せず (仕事をするの必要少しもなし)。

"he must *needs* do this" (彼は必ず此れをなさゞる可らず) の如き文にては *needs* は實際 *s* の前に畧されたる畧符號を有する領格なり、故に *needs*=need's = of need =of necessity=necessarily (必ず) なり、其れ故に *needs* は副詞となりたるなり。

(13) *WORTH* (適當す)

此動詞は "woe *worth* the day" (其日に適當せる災禍) の如き文に於て起る此文は災 "woe be to the day" (災禍其日にあれ) なる文に等し、"day" なる名詞は目的格なり。

此處にては *worth* は "to become" (適當す) を意味する所の廢れたる動詞の第三人稱單數接續法なり、接續法は此處にては願望の意義にて用ゐられたり (**106** 節 2 參照)。

(14) *WIT* (知る)

此動詞は "to know" (知ること) を意味す、其形の唯僅少のもの殘存し他は廢用に歸したり。

(*a*) "namely" (即ち) の意義なる不定法の形 *to wit* 此れは現今多く法律的證書に用ゐらる即ち

He left me by will all his land, *to wit*, the three farms.

彼は遺言に依て彼の總ての土地即ち三ヶ所の小作地を予に遺せり。

(*b*) 現在分詞は "unknowingly" (知らずして) "unintentionally" (存念なくして) を意味する unwittingly なる打消しの副詞的形に於て殘存せり。

You can not blame him for this, since he did it *unwittingly*.

彼は知らずして其れを爲せし故此れが爲めに汝は彼を非難する能はず。

(*c*) 現在直說法に於ては此動詞は *wot* の形を有す然れども此等は殆んど廢用に歸せり。

Present (現在)、——He *wot* (knows) neither what he babbles nor what he means.——*Tyndal.*

彼は彼が喋々する所のものも又彼が意味する所のものをも知らず。

Past (過去)、——They *wist* (knew) not what had become of him.——新約全書。

彼等は彼が如何に成り行きたるかを知らざりき。

(15) *BEWARE* (用心する)

此れは *be*+*ware* より成り立つ合成文字なり、"Ware" は "cautious" (注意する) を意味する所の形容詞 "wary" の古き形なり、此形容詞は動詞 "be" の補助言なり而して常に前置詞 "of" に續かるゝなり。

Imperative (命令法)、——*Beware* of false prophets.

偽豫言者に注意せよ。

Infinitive (不定法)、——He told them *to beware* of false prophets.

彼は偽豫言者に注意すべきを彼等に告げたり。

With Auxiliary Verbs (助動詞を有する)、——You *shall beware* (汝は注意すべし)、you *did beware* (汝は注意せり)、you *can beware* (汝は注意し能ふ)、you *must beware* (汝は注意せねばならぬ) 等なり。

THE END.
〔終 り〕

大賣捌所

京都市東洞院三條東へ入ル　村上勘兵衛
大阪市東區備後町四丁目　吉岡平助
仝　京橋區南傳馬町二丁目　目黑書店
東京市日本橋區通三丁目　林平次郎
松本本町二丁目　高美書店
長野市大門町　西澤喜太郎
仙臺市大町五丁目　藤崎祐之助
名古屋市本町　川瀨代助

複製不許

印刷者　東京市京橋區入舟町五丁目一番地　南喬一

發行所　東京市神田區表神保町六番地　上原書店

發行者　東京市神田區表神保町六番地　上原才一郎

譯述者　東京市本郷區第一高等學校寄宿舍　葛西又次郎

譯述者　東京市牛込區矢來町五十三番地　奈倉次郎

正價金三十錢

明治三十四年六月十六日發行

明治三十四年五月廿三日印刷

予が社友の著述に對して斯くまで讃辭を呈し臆面なく世人に推薦し得るは、予の最も喜ぶ所なり

友人　久保田總南謹評

すること必要なき事なり。是れ學生の最も便とする所ならんか。

學生を益するのみに非ざるを見るなり。最後に本書に付て推擧せんとする所は。本書を手にすれば別に原書を參考批評を加へ、或は其說明の足らざる所を補講し、或は國語文典と對照解釋を試みられたるの一事に至りて本書獨り反覆して殘す所なく。原著者の意義を充分に闡明して遺憾なし。特に別に「講註」の欄を挾みて或は原著者の議論に倉君の著述に至りては、卽ち全く此弊を脫せり。原書の本文は勿論其適例として示す所の章句と雖も、精確に之を予輩をして原書と對照するにあらずんば其果して何事を解釋する者なるかを知るに困しむる者あり、是を以て、試に其書を一讀するに英語に精通せず、よく精通するも嘗て殆んど文典を講究したることなきの士あり、其英語界を益すること果して如何ぞや。世の文典講義直譯等の名稱を冠せる書籍を見るに著述者往々にして斯の人に受くる所の學生竊に君を呼びて「文典狂」となす。君の文典に熱心なる知るべきなり。今斯の人にして斯の文典を講ずる所、其教授を奈倉君は、英語の研究を以て、一生の事業となさんと自ら任ずるの士、殊に文法は、其最も嗜好する所なり。此文典一たび輸入せられて、從來流行せる文典の跡を英學界に收めんとするに至りしことの偶然にあらざるなし。加ふるに其第三卷以上は、說く所周到精密にして、予輩英語を研究する者をして、會得解悟せしむる所甚だ多き重きを實地應用に置きたること其一なり。英米人の爲にせずして、特に東洋人の爲に著述したる者なること其二なり。（日本英學新誌評）チスフイールド氏英文典の特長とする所蓋二あり。普通の學者學生に適切ならざる理論を避けて、

乞ふ一本を購ふて其言の妄ならざるを知られんことを。

第三英文典　チスフイールド　講義錄

郵稅下卷金六錢
郵稅上、中卷各四錢
下卷正價金三十錢
上卷中卷正價各廿五錢
美本全三冊

解說すること到れり盡せり。チ氏文典の眞義を闡明するに於て、毫末の遺憾なきを信ず。徒諸君及獨學者の爲めに、該博なる英文典の智識と、熟練なる敎授上の經驗とを以て、之を唯邦文にて譯解せる完全の書に乏しきを憾みとなしたりしに、本書の講述者は、諸學校生の著書に勝るものなし。そは其書の現今最も廣く敎科書として用ゐらるゝにより明なり。日本學生の英語を學ばんとするものに取り、實用的に有益なる英文典は、チスフイールド氏

學校講師　東京英語專修　奈倉次郎君　講述

米國哲學博士　元田作之進　先生序

（上卷三版◎中卷再版◎下卷新刊）

發行所　東京市神田區裏神保町六番地　上原書店

博せり、請ふ一閲の上採用あらんことを
大字の活字を用ゐ鮮明に印刷せるものなり、發行以來數多の學校に採用せられ、大に好評を
本書は有名なるスイトン氏萬國史の中近世史の部を抄出し、文部省の教科書標準に據り、

英文　スイントン氏近世史抄

全一冊　◎郵税金四錢　◎正價金卅五錢

字の活版を用ゐ、紙質、印刷に注意し發行せり、請ふ採用せられんことを
英語學科の教科書、又は參考書に最適當なるものなり、今文部省の教科書標準に基き、大
本書は、平易なる文章を以て、倫理及理科等の談話を、比喩的に記述せしものにて、初級

英文　グリム童話　Grimm's Fairy Tales.

全一冊　◎郵税金四錢　◎正價金貳拾錢

を以て發行せり、
に、中學校其他英語學校にて教科書に採用せらる、今紙質を撰み活字は校正を嚴にし、低價
本書の寓言諷刺を以て、よく少年の教訓に適せることは、世の知るところなり、故に夙と

伊蘇普物語　ÆSOP'S TALES.

全一冊　◎郵税金貳錢　◎正價金拾五錢

なる註釋を附せしものなり
本書はチスフイールド氏第一英文典を學習する諸君の爲めに懇切丁寧に原書を譯述し詳細

第一英文典　チスフイールド氏　直譯註釋

全一冊　◎郵税金二錢　◎正價金十四錢

葛西又次郎君譯述

083332−000−5

特27−499

子スフィールド氏第二英文典直訳註釈

奈倉 次郎
葛西 又次郎／訳

M34

DAH−0841